

「質の評価が困難なサービス活動」を捉える統計を構築する方策（三輪委員提出資料）
へのコメント

大守 隆

1. これまでの公的統計は、分散的な体制のもとで、所管省庁が重要と考える事項を重視する一方で、省庁横断的な需要や国民や市場の視点からの需要が十分に考慮されてこなかったきらいがあるとの指摘をWG 2の報告書にも盛り込むこととしてはどうか？
2. p 4以降の各種の puzzles を解明していくことは政策を evidence に即して進めて行くことにもつながるので重要であると考え。しかしそうした需要を調査する際に、国民全体を相手にするアプローチよりも各分野の研究者からの問題提起を受けることが効率的ではないか？（潜在的に重要な分野であっても、新しい情報がどのように政策と結びつき得るかについて、一般国民の想像力が十分でない場合には、「関心の低い分野」と位置づけられてしまう可能性がある）。
3. こうした需要を聴取する方法としてはWG 1で統計委員会の下に設けることを検討している意見募集の場で行うことが良いのではないか？分野別に期限を区切って意見を募集した後で、重点を絞って議論を行うのも一案。

- 以上 -